キヤノングローバル戦略研究所

国内ワークショップ「地球温暖化緩和における世界で共有できるエネルギー・ビジョン」
2011 年 6 月 30 日（木）13:00 – 18:00

総合討論のまとめ

１．地球温暖化抑制に向けて、COP での国際交渉を踏まえて、IPCC WG1, 2, 3 を集合して議論し、科学性・衡平性・実現可能性をまとめたワンセットで提言することが非常に重要である。そのため、以下の課題についてさらなる議論が必要である。

- 対策不足は問題になるが、過度の対策によっても経済発展が阻害されるので、温度上昇の２℃目標を総合的に評価する必要がある。
- リスクはサイエンスで決まらないので、緩和策と適応策のバランスを検討する必要がある。
- 地球温暖化の科学的検討ならば、排出量と温度上昇、温度上昇とインパクト・被害、排出抑制と必要な技術・コスト、被害予測と回避策・コスト等についてしっかり科学的研究成果を出していく必要がある。

２．Z650 は、合理性の高いシナリオの一つであり、国際交渉に有利な科学的土台である。温暖化抑制に対する日本の考え方の一つとして持っていることは重要であり、IPCC のコンセンサスへ結びつけていくことが大事である。

３．科学的目標の達成経路の予測結果に関する解釈はいくらでもできる。重要なことは、国際交渉の現実から見て、そのベースになるようなものを作り上げることである。

４．世界全体最適化アプローチは、全体としてコストが安い。しかし、欧米が主導してきたトップダウン形式の削減は行き詰まっている状況で、世界を変えていく出し方を考えるべきである。

５．科学的目標を実現するシナリオの設計には、日本の国益を盛り込む必要がある。

６．温暖化抑制技術を選定する際に、技術のリスクを評価する必要がある。また、代案としてリスクの特定できない技術（CCS 等）が適用されないケーススタディも必要である。

７．原子力フェーズアウトの計算結果について、地域ごとのコストをさらに解析する必要がある。